



「ひな人形づくり」(子供たちの活動)

紙をまるめよう

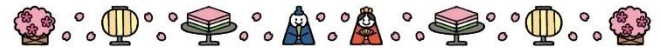
制作活動の場所へ移動すると、トレイに必要な材料が一人一人に準備されていました。子どもたちは、盲学校の先生と一緒に紙をまるめてカップに入れ、おだいり様とおひな様の着物を作りました。お父さんやお母さんと離れてはじめは少し涙が出てしまった子供もいましたが、しばらくおもちゃで遊んでいると、『自分も作ろうかな〜』という気持ちになったようで、後半は楽しく活動できました。

視覚障がいのある子供たちにとって、手指を使ってじっくりさわって確かめたり、よく見ようと保有する視覚を活用したりすることはとても大切なことです。今回は、触り心地のよい花紙や色のはっきりしたシールを用いて制作活動を行いました。

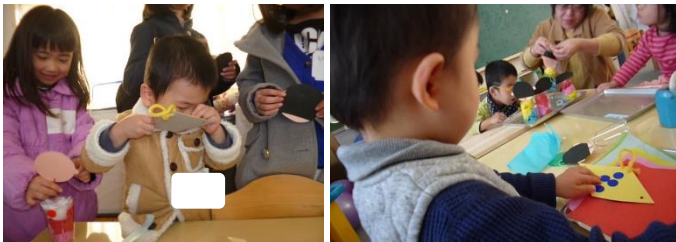
シールをはろう



着物ができたら、台紙にシールを貼って飾りつけをしました。台紙にひもで人形をつけてもらった後、ひな人形の完成！ある男の子は、今回のように自分で何かを工作するというのが初めてだったので、完成したひな人形をととても気に入り、手から離さずずっと大事に握っていました。台紙に自分の顔写真を貼ってもらい、お家に持って帰りました。



お友達や先生といっしょに



制作活動が終わると、それぞれに好きなおもちゃや楽器で遊びました。お友達と一緒にタンバリンをたたいてリズム遊びをしたり、おみせやさんごっこをしたりして楽しむ様子が見られました。

保護者座談会「先輩保護者からのメッセージ」



◆講師◆安田洋子さん

小学校の先生をしながら、二人の全盲の息子さんを育てられた経験を語っていただきました。現在、30代になる息子さん方は熊本を離れ、それぞれの道で御活躍中とのことです。

安田さんの上のお子さんが生まれた頃のエピソードから始まった座談会。冒頭から涙を流されるお母さん方がたくさんいらっしゃいました。アルバムの写真や旅行のときの録音なども披露していただき、当時の様子、生き生きと成長されていく御兄弟の姿が手に取るように伝わってきました。安田さんが最後におっしゃった「大丈夫！子供って育つように育つものですよ。」というメッセージは、参加されたみなさんに大きな勇気を与えてくださったようです。参加されたあるお母さんは後日、「自分も安田さんのように語れるようになるのかな。写真とかビデオとか残しておかないとだめですね。」と笑顔で感想を伝えてくださいました。



安田さん、ありがとうございました。
そして、これからも
どうぞよろしくお祈りします！

